令和6年度第2回子ども読書活動推進会議【書面開催】 会議録 （要旨）

1 開催日・開催方法
令和7年2月書面会議にて開催

2 意見書提出者
［委 員］（敬称略）
山元 悦子、矢崎 美香、河井 律子、本田 壽志、上満 佳子、小島 松美、
中村 仁、黒田 玲子、久間 猛、仲 紀子、尾場瀬 淳美、内藤 稚代、
澤野 亜由美、鶴田 弥生 計14名

3 議事
次期「北九州市子ども読書プラン（第5次北九州市子ども読書活動推進計画）」の策定について
（1）子ども図書館開館以降の取組みについて（説明）
・ 子どもの読書活動推進に関するこれまでの成果
・ 第4次プランの成果からみる今後の課題
（2）次期プランの方向性と方針について
（3）次期プラン策定のスケジュールについて

【議事⑴】子ども図書館開館以降の取組について（説明）
子どもの読書活動推進に関するこれまでの成果と課題の説明について、ご意見やご質問等がありましたらご記入ください。

（委員） 図書館が楽しみ安らぐ場所であるためには、ハード面の工夫が必要かと思います。ヘルシンキの Oodi 図書館などは地元の人びとのリビングルームといわれているらしく、ゲームルームがあったり、イベントができるワークショップルームがあったり、絨毯が敷いてあってくつろげるツール（椅子）がセンスよく用意されています。大幅なリニューアルは難しいですがこれらの著名な図書館の HP を参照して活用できるアイデアをもらってはどうでしょうか？（この情報は「フィンランドの図書館」で検索して入手しました。）
学びを支援する図書館になるには、学校との連携が鍵になるかと思います。放課後部活の拠点にするというアイデアを先の打ち合わせの時に伺いましたが、是非実現させたいものです。校長会などに出向いていって、図書館でできることをアピールし、つながりを作っていければいいなと思います。

（委員）　読書をする率は向上していますが、スライド15を拝見すると図書館活用がされていないかと思います。先日市民カレッジで図書館の活用を行ったところ、感想に「図書館の活用方法が分かった」との感想を頂きました。知っているようで知らない図書館の活用方法（図書館活用リテラシー）を向上させることが必要なのではないかと思います。子どもたちは、興味があることには熱心に学ぶかと思います。探求心を掻き立てるような図書館の使い方の講座やイベントを開催すると良いかと思います。なお、その際は図書館職員だけではなく、外部の人材を活用することもご検討頂けると良いかと思います。

（委員）　「なぜ読まない」「なぜ利用しない」といった課題が明確になったのも活動の成果だと思います。

　居場所としての図書館という新しい課題も発見でき、どう取り組むか工夫が求められているように思います。

（委員）　第3次、第4次プランにおける成果として「読書好き」や「不読率」において良好な結果が得られていることは大変素晴らしい結果であると感じます。一方で、読書離れや図書館離れの傾向に高まりがみられることには、次期プランの策定に向けて、取り組み内容の見直しや強化が必要であると思います。

（委員）　今回は非常に丁寧に分析がなされ、それに応じた対応策が策定されていると感じました。

　私たち保育園では、絵本の読み聞かせは積極的にほぼ毎日行っており、絵本の家庭への貸し出しも実施していますが、書店から幼児期の絵本の販売がほぼ古典と言われるものに偏っていることをお聞きし、また小中学生になって「本で調べない」「読みたい本がない」「ほぼ本を読まない子どもが一定数いる」という実態調査結果から、幼・保時代の絵本の読み聞かせのあり方も、最近の課題に即した内容の物を取り入れていくことや、科学絵本や食育など幅広い知識を得られるようにして行くなど、今後取り組んで行く必要性を改めて感じました。

（委員）　北九州市に住む子供たちが読書をする比率が全国よりも高くなった事は日ごろからの皆様方の取り組みが報われた結果だと思っております。

　【子どもの読書活動推進に関するこれまでの成果】

　そこで質問なのですがここに記載されている不読率や読書好きな子どもたちの割合が全国を上回るとありますがどのようにしてお調べになられたのでしょうか？

【第4次プランの成果からみる今後の課題】

楽しむ機会を増やす、学ぶ手段として活用、安心して過ごせる場所とありますが図書館の利用や学校の図書室以外にも市民センターや学童などをもっと有効活用し子ども達が今、読みたいと思っている本を生活に身近な場所に置く事が出来ればもっと本が身近な存在になるのではと思いました。また、「子ども電子図書館」にももっと子供たちが読みたいと思っている本を充実させる事が出来れば良いとも思ってます。もちろんもっと「子ども電子図書館」を周知する事は必要だとは思いますが…

（委員） 次期プランの策定のための総括の成果だけではなく、「小学生の読書好きがR1より大幅に下がった」という課題や反省の記述も必要と思います。この課題や反省が次期プランに生かされることが重要と思います。

（委員） 開館当初は子ども達が自ら活動し、読書好きな子からあまり本を読まない子に対してアプローチ出来るような仕組みを望んでいたが、私を含め支える大人のきっかけ作りが足りなかったと思います。

不読率など、なぜ読まないなぜ利用しないも気になる所ではあるが、読んでいる子どもがどのような経緯で自身の読書経験を積んでいるのかを聴取して活かせないものかと考えます。

（委員） 学校図書館職員の先生方の熱心な環境づくり、ビブリオバトル、子ども読書の日の取り組み等、学校における読書への働きかけは目に見える形になっているように思います。

研修や子ども司書、ジュニアサポーターの育成等、子ども図書館が発信の基地になっているのだろうと感じています。地区図書館との連携がどの位進んでいるのかは、あまり見えてこないのですが・・・。

（委員） 子どもの読書活動推進における学校の役割は大きい。学校図書館職員の活動を知りたい。特に閲覧業務等以外の教師と連携して行っている読書活動に関わる内容について。

難しいのかも知れないが、学校図書館職員が毎日来校できるようになれば、休み時間にも毎日貸し出しができ、子ども達も嬉しいと思う。

（委員） 「学ぶ」：保護者や地域の大人にも理解をしてもらうリリースが必要だと思います。例えば「〇〇を調べたいから図書館に連れて行ってほしい」と子供から言われた時に「わざわざ行かなくても・本でなくてもスマホで・・・」とならないように。DX にも触れられていますので、課題化解決の支援に特に期待します。

【議事⑵】次期プランの方向性と方針について（協議）
　ご提案しました、①目指す姿 ②三つの方向性、③（発達段階に応じた重点化した）方針について、ご意見等がありましたらご記入ください。

（委員）　発達段階を念頭に置いた重点方針にすることで、取組のイメージが具体的に見えてくるように思います。賛成です。
　令和7年より実施される北九州市図書館基本計画の基本目標 3・4にある「つながる」というキーワードは、踏襲（どこかに反映）しなくても構いませんか？課題を踏まえて「楽しむ」という方向性を選んだということで理解しましたが、それで筋は通りましょうか？
　中高生の取組みの方針を「多様な目的やニーズに対応し、主体的に図書館や本を利活用して学びを広げることができるようにする」としてはどうでしょうか？あまり変わりませんが中高生では、3つの方向性のうち「学び」に重点を置くことを表してはどうかと思います。
　25の施策についてですが、学校における読書活動の推進に、タブレットを活用した電子書籍の利用促進のようなことが入るといいかなと思います。
　「取組」の表記が、取組み・取り組みとゆれているようなので統一してはどうかと思います。
（委員）　進行表2ページの（2）次期プランの方向性と方針について（協議）の②の方向性、スライド37では、「学び」「やすらぎ」「楽しむ」とありますが、スライド36の目指す姿では、「学び」「やすらぎ」「つながる」とあります。「つながる」姿が「楽しむ」方向性とイメージしにくいように思います。また、「やすらぎ」がくつろげる場所というのも少し疑問が残ります。
　基本計画では、図書館の場所を活かすことを目標としているのでしょうか。子どもの読書を推進することが目標でしょうか。そこがわかりづらくなっているように思います。
　また、3つの方向性のワードを使うのであれば、図書館を使い、本を使い楽しく学び、多種多様な人とつながり、心を豊かにすることが大切だと思います。確かに第3の居場所としての図書館というのが他の行政区においても取り組みがなされていますが、子どもを対象というより大人を対象としているように思います。 もし「やすらぎ」に近いワードを使うなら「安心」の方が良いのではないでしょうか。子どもも大人も安心してくつろげる場所というような感じだと思います。

（委員）　全体的なことですが。

①　乳幼児や小学生の読書について、楽しむ読書が強調されていますが、乳幼児期からの様々な事柄に関する興味や関心を育てるための知る・調べる読書といった、多様な読書の視点も必要なのでは。

②　縦割りではなく、地域・学校・図書館・家庭の横につながれる連携の仕組を作れないものでしょうか。

（委員）　日常生活の中の多くの場面で、本がコミュニケーションや学びの手段やツールとなり、常に傍らに然るべく寄り添うように本がある状況は正に理想的な姿であると感じます。また、本で学べる、やすらげる、楽しいと感じられるようになるためには、文字への慣れや親しみ、単語の知識、文章からその情景を想像する力を育むことも大切かと思います。絵本から児童書へ移行していく過程が正にその力の基礎を育む大切な時期であり、そういった事柄の育成をもっと大人が援助してあげることが必要なのかもしれません。

（委員）　①　目指す姿・・・よいと思います。

②　3つの方向性・・・よいと思います。が、乳幼児については私たち保育施設が指導していく上で、「成果指標」の〝児童〟のところに入れて考えていけばいいでしょうか。

幼児も4・5歳になると本好きかそうでないかは顕著になり、家庭への働きかけだけでは本好きにしていくことは難しい側面もあり、幼児期でも本人への働きかけが必ず必要と考えます。

③　今回の取り組み方針～発達段階に応じた重点化した方針は、きめ細やかで評価できる方向性と感じました。来期この取り組みを実施してみて、成果指標等で結果を分析し、さらに継続していくことで成果が上がることを期待しております。

今回「楽しむ」のテーマが入ったこと、また地域分野に乳幼児期からの読書活動の推進強化が入ったことは評価ポイントと思います。子育て関連施設への取り組みが重点化されていますが、それと共に保幼から小へ繋ぐところで本好きの子どもを継続し増やしていくためにも、「読み聞かせや貸し出しの推進・支援」の中に具体案を提示するとよいと思いましたが、具体案までは難しいでしょうか。

（委員）　①　目指す姿…読書習慣の確立とありますが今、学校教育の現場では朝読書の時間が設けられている学校などはあるのでしょうか、もちろん家庭で行う事が一番重要なのでしょうが北九州に住むすべての子どもの読書習慣を確立するのであれば児童・生徒の生活時間が長い学校の協力が必要であるように思えます。

②　方向性…「学び」「楽しむ」は子供たちが自らの思いの中で取り組む事ができるが、本を読むことで「やすらぐ」というのは別として「やすらぎ」については与えてあげなければ自らの力で手に入れる事は出来ないので、「やすらぎ」については今後も大人が時代に合わせ作っていく事が必要であると思う。

③　方針…発達段階で具体的な取り組みを行う事は重要であると思います。特に幼少期の子ども達に本に触れる機会を今以上に増やす事が必要であると思います。

（委員）　P14・15の年次推移が示されていないので、P16の課題1について納得性が低いように思います。

市立図書館を利用しない理由の中の「図書館に行く時間が無い」「貸し借りが面倒」「図書館が近くに無い」にも、もっと注目すべきだと思います。家庭でのネット環境が進む中、第4次推進計画の中にある家庭でのタブレット端末やスマートフォンでの電子書籍の貸与などを強力に推進すべきと考えます。

P36の北九州市図書館の基本計画に、上記を踏まえて「非来館者サービスの導入推進」を追加してほしい。

P39に家庭として「小学生の読書好きが大きく減っている」ことを記載して、この反省を踏まえて具体的な対策を追加してはいかがでしょうか。

現行プランの25施策と成果（読書好きな家庭比率、読書好き小中学生比率、不読率小中学生）との効果を◎、×、△等で示して、施策ごとの費用も含めて評価することで現行プラン施策を取捨選択して時期プランの効果的策定に役立つと思います。

（委員）　③　発達段階に応じた重点化した方針は具体的な対応を発案しやすくとても良いと思います。

【乳幼児期】

ブックスタート事業では昨年秋より区役所の保健師等の方々が各家庭へ届ける方法になりましたが、同時に各地区館や親子ふれあいルームなどのおはなし会の案内も一緒に届けることが出来ればと思います。

地区館から絵本セットとブックスタートのパンフを区役所に届けるとの事ですのでお願いしたいです。

【小学生】【中高生】

議事（1）の読書経験を積んでいる子ども達のひとり読みのきっかけは小学生の低学年の時期が多いようです。とは言え図書館に保護者が連れて行ったり、好きな本を購入してあげる家庭ばかりではありません。

そこで全ての子どもが利用できる学校図書館の充実に取り組むことが大切だと思います。全校区に学校図書館職員配置ではなく、福岡市北九州市以外の福岡県の市町のように1校に1人配置を増やす方向でお願いしたいです（福岡市では大幅に増やす方向のようです）

せめて現状司書教諭が必ず1校にひとりはいらっしゃるので、司書教諭が充分に読書活動に取り組めるように子ども図書館が中心となり推進して欲しいです。

学校によって差があると思いますので、まずは各学校での読書活動の現状を把握することが大切だと思いますのでお願いします。

（委員）　目指す姿はわかり易く、方向性として示されている「学び」「やすらぎ」「楽しむ」は本、読書、図書館の素晴らしさを表現できていると思います。

発達段階に応じてどんな働きかけをするのか？という点は、子ども達が家と学校以外で多くの時間を過ごす場所で何ができるか？を考える必要があると思います。

幼稚園では「おのこり保育」、小学校の「学童」、「市民センターでの講座」、中・高生は「自習スペース」等、それぞれの場所で本とどう関わることができるのか、読書に結びつけられるのか、また図書館は各年代に伝わるツールをもっているのか…等です。

特別支援学校の子ども達が放課後等デイサービスの活動の中で地区図書館を利用する姿はよく見かけられ、いつも嬉しく思っています。

（委員）　①　主旨は素晴らしいと思いますが、スライド34には「日常」という言葉が2回出てきますが、スライド41は「日々」となっていて継続とあるので、スライド41が正しいのですね。

②　スライド39『実態1「本を読まない」児童20％を超える』この児童の中には、文章を読むことが面倒だったり（スマホやタブレットをスクロールする習慣？）、文字をすらすらと読めないから読書が楽しくなかったりという子も少なくないと考えます。「読書体力」は、日々の習慣の積み重ねが必要で、時間をかけないと育めないので、“きめ細やかな支援”の具体例はどんなものを想定されているのでしょうか。

③　②と重なるのですが、【小学生】こそ、「習慣化」の為の大切な時期のように思います。

（委員）　①　賛同します。

②　“楽しむ”はとても大切な要素だと思います。本や図書館に興味がない子供の「興味がある・夢中になっていること」をもしアンケートできれば、試してみる策につながるのではないかとも思います。例えば「部活で忙しい」という回答が多ければ、部活をテーマにコーナーを作り、好きなことをする自分のためになる・好きなことをしている自分だからこそ登場人物を理解できるなどの体験につながり、好きな事と読書がリンクするキッカケになるのではないかと感じます。

③　文化的活動をする地域の方は多いのでそちらとも連携・活用してもらうのも良いと思います。SNS での情報発信については具体的に伺いたいです。

【議事⑶】

策定に向けたスケジュールについてご質問やご意見等がありましたらご記入ください。

（委員）　策定スケジュールについては質問や意見はありません。

このまちに住む子供たちが自身の生まれ育ったまちに誇りを持つ事が出来ればと思っています。読書を通じそのような子どもたちが増える事を願っています。

大変な作業かとは思いますが引き続き宜しくお願い致します。

【その他】

その他読書活動推進全般についてご意見等がありましたらご記入ください。

（委員）　上記に書きました市民カレッジの際に図書館の使い方を説明しています。その際に北九州市の図書館のホームページを使い説明をしているのですが、利用者目線からすると少しわかりづらくて使いづらいです。

子どもの読書を推進するためには、大人の協力も必要かと思います。特に読書のなじみのない人を取り込むことを考えると工夫することが必要かと思います。

色々と思いのまま書いてしまいましたが、少しでも検討材料になればと思います。

（委員）　読書を子供の身近なものにするには、学校司書の全校配置などの思いきった施策が必要だと思います。いつでも本や読書に精通した専門知識を持った人が子どものそばにいて、本と出合わせてくれれば、子どもたちは本を読むようになります。まずは、いつでも開いている学校図書館を目指すべきだと思います。

　学校図書館に学校司書が常駐していれば、居場所としての図書館にもなるのではないでしょうか。

（委員）　子ども達が活用したくなるような取り組みを、子ども達からの意見も取り入れながら進めることができればと思います。

（委員）　次年度も引き続き宜しくお願いいたします。

（委員）　幼・保別に、年1回でも司書の方から「図書の分類の仕方、本の選定仕方」など、研修会の開催をすることや、難しければ連盟宛に開催案内をメールなど頂くことはできないでしょうか。頂ければ全園に流して貰えるので周知できると思いますが。

　家庭的に図書館に行ったことのない乳幼児もおり、地域図書館や学校図書館に各園から連れて行ける開放日の設定が月1回でもあると利用しやすいと思います。

（委員）　私は PTA からの出向で専門家ではないので一家庭の意見しか申し上げる事しか出来ませんが「本好き」な子どもと「本嫌い」な子どもを育てた保護者の意見として聞いて頂ければと思います。

（委員）　小・中学生の読書推進を強化するために、最も身近にある学校図書館の活用が重要と考えます。第四次推進計画の中に、市立図書館との連携強化として「授業に活用される図書をパッケージ化した学校貸出し図書セット」の充実が有りますがこれに加えて「小・中学生が読みたい本」をこの中に加えてみてはどうでしょうか。市立図書館が近くに無い生徒が多い中、気軽に「読みたい本」「興味がある本が自分の学校で読んだり借りられることで、より多くの生徒が読書に触れる機会を作ることになると思います。

（委員）　これは私の小さな活動の中の小さなデータなのですが、はじめての絵本事業について感じていることがあります。図書館や親子ふれあいルームで乳幼児さんに絵本を読ませていただく際、親御さんに「はじめての絵本は何（の絵本）でしたか？」と質問すると、以前は「〇〇と〇〇でした」「上の子は〇〇と〇〇、下の子は〇〇でした」などと教えていただけたのですが、最近「何だったか…」「忘れました」と思い出せない方が少なからずいらっしゃいます。

　母子手帳交付時に贈られ、実際に赤ちゃんに読むまでの期間が、初めてのお子さんの場合長過ぎるのかもしれませんね。

（委員）　子ども達を図書館へいざなうには、大人の力が必要です。

　読書好きな大人＝「孫と行こう　楽しみ図書館！」 時間にゆとりがある人は図書館に行く時間もあるので、これも楽しいと思いました。図書館はお金がかかりませんし。

　「商業・レジャー・協力」 大賛成です。「武雄図書館」のように、書店と連携すれば、価格高の本も吟味して選べます。

　休日は家族でランチに行くついでに図書館も！（ファストフードやベーカリーが併設してあると可能ですね。）

（委員）　わかりやすい資料に感謝しております。